

QUARTERLY REPORT



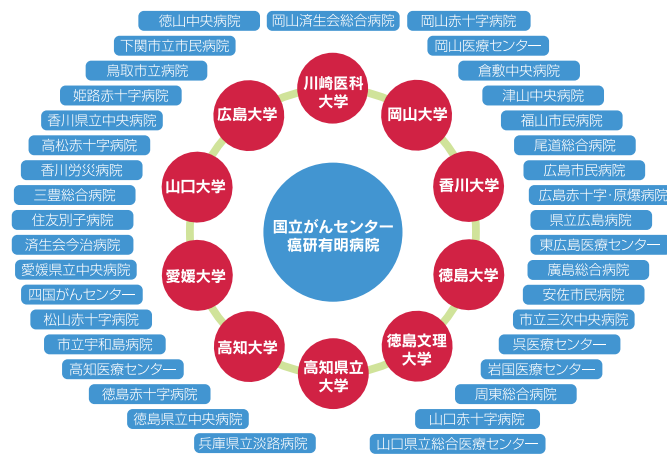
MANAGING OFFICE
2-5-1, SHIKATA-CHO, KITA-KU
OKAYAMA 700-8558 JAPAN
PHONE:086-235-7023 FAX:086-235-7045
<http://www.chushiganpro.jp/>

VOL.40
2014. SEP

Mid-West Japan
Cancer Professional Education Consortium 
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム

趣旨・組織

がんは、わが国の死亡率第1位の疾患ですが、がんを横断的・集学的に診療できる専門家が全国的に少なく、その養成が急務とされています。また、近年の高度化したがん医療の推進は、がん医療に習熟した医師、薬剤師、看護師、その他の医療技術者等(メディカルスタッフ)の各種専門家が参画し、チームとして機能することが何より重要です。そのため、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがん医療に携わるコメディカルなど、がんにて化した医療人の養成をおこなうため、大学病院等との有機的かつ円滑な連携のもとにおこなわれる大学院のプログラムが「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」です。



中国・四国全域に広がる拠点病院
組織的・効率的ながん治療の均てん化の実行組織
●:コンソーシアム参加がん診療連携拠点病院



●:コンソーシアム参加がん診療連携拠点病院
●:参加大学・がんセンター

ごあいさつ

本プランは、中国・四国地域に位置する10大学がひとつのコンソーシアムを作り、各大学院に多職種のがん専門医療人養成のためのコースワークを整備し、これに地域の37のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラなくがん専門医療人を送り出すことを目的としています。

がんに関わる多職種の専門医療人が有機的に連携し、チームとしてがん診療ならびに研究にあたることのできるよう職種間共通コアカリキュラムの履修を出発点として教育研修をおこないます。また、国内外のがんセンターと連携し指導的ながん専門医療人養成のためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を連動させ、大学院教員の教育能力を強化しています。

各大学・地域の持つ特色を活かし、互いに補完・止揚する教育拠点を確立します。高度なレベルで標準化された共通コアカリキュラムおよびeラーニングによる域内統一教育(共育)と、大学間連携による大学、分野、職種をこえた専門職連携教育(協育)をおこないます。また、英語教育と海外先進施設との連携により国際的に活躍する医療人の養成と、地域医療機関・患者会との連携による在宅高齢者がん医療に貢献する専門医療人の養成をおこないます。これらの活動を通じて高度な専門知識に加え、チーム医療・リサーチマインドを身につけた全人的高度がん専門医療人が多数輩出され、中国・四国地域におけるがん治療の均てん化、標準化が実現され、各大学、地域における臨床研究や橋渡し研究の活性化を目指します。

当コンソーシアム事務局では、講演会、海外研修学生募集などの情報を広く発信することを目的としたクォーターリーレポートを発行しています。

本誌をきっかけに、大学院入学や各種セミナーへの参加等をご検討いただければ幸甚に存じます。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム
事務局

オンコロジーミーティング

広島大学 大学院 医歯薬保健学研究院
応用生命科学部門 放射線腫瘍学 教授 永田 靖



広島大学では、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの活動の一環として、7年前より、オンコロジーミーティングを開催している。期間は通年開催で、毎週水曜日の夕方6時から7時まで行っている。主な対象者は、院内外のがん専門医や歯科医とがんプロ大学院生、研修医、医学部学生ではあるが、看護師・薬剤師・栄養士・医学物理士・診療放射線技師等の多職種も参加している。

現在テレビネットワークを通じて複数の拠点をつなぐことができるので、広島市立安佐市民病院からは毎週参加があり、積極的な質疑応答が行われている。また、市立三次中央病院や広島市立広島市民病院などの県内がん拠点病院からもネットワーク参加がある。

内容は、がんに関連した診療科が持ち回りで決めている。広島大学にはがんに関連した多数の診療科(呼吸器内科、腫瘍外科、がん化学療法科、婦人科、耳鼻科・頭頸部外科、乳腺外科、緩和ケアチーム、消化器内科、消化器外科、歯科WG、総合診療科、血液・腫瘍内科、小児科、皮膚科、整形外科、泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科)があるため、各科の当番は年2回程度である。複数の診療科から、また多職種からの参加もあるため、各診療科に関連する院内がん治療プロトコル、各診療科の最新トピックスの紹介もしくは興味深い症例提示をお願いして

いる。その中でも特に人気が高いのは、各診療科による病棟・外来看護師らの症例提示や、他のメディカルスタッフとの共同発表などで、大勢の参加者を得ている。また、ミーティング時に配布資料を用意してもらっているため、記憶にも残る。

キャンサーボードとしての個別症例検討カンファレンスは、各臓器がん単位で複数の診療科間で定期的に多数開催されている。他方で、広島大学病院内で毎週1回定期的に開催される多職種参加型がんカンファレンスの意義は、各種がんに関連した共通の最新情報共有とともに、とすれば希薄になりがちな院内交流や、県内がん拠点病院とのネットワーク形成、専門医・大学院・学部教育にも重要な役割を果たしている。



オンコロジーミーティング

平成25年度 開催実績

回	開催日	担当診療科	テーマ
1	4月10日	放射線治療科	放射線治療におけるチーム医療－医学物理士の役割を中心に－
2	4月17日	がん化学療法科	中央点滴室における薬剤アレルギーの現状と対策
3	4月24日	歯科WG	がん治療で口腔に随伴する副作用への対応
4	5月 8日	皮膚科	ダーモスコピーによる皮膚がん診断
5	5月15日	総合診療科	がん化学療法において不足する栄養素・電解質 栄養不良による弊害
6	5月22日	消化器外科	見逃がされやすい遺伝性腫瘍症候群(Lynch症候群)の診断と治療
7	5月29日	放射線診断科	肺癌のPET/CT診断
8	6月 5日	小児科	小児がん治療の最近の進歩
9	6月12日	呼吸器内科	進行期非小細胞肺癌に対するALK阻害剤治療と看護のポイント
10	6月19日	産科婦人科	子宮体がんの診断、治療についての最新知見
11	6月26日	耳鼻咽喉科	頭頸部癌に対する分子標的治療
12	7月 3日	消化器内科	当科における大腸S.M癌に対する取扱いの現状
13	7月10日	血液内科	造血幹細胞移植と妊育性
14	7月17日	乳腺外科	妊娠24週目に乳癌と診断され 治療方針の決定に苦慮した一例
15	7月31日	泌尿器科	進行性腎癌に対する分子標的薬治療について
16	9月 4日	放射線治療科	切除不能局所進行性癌に対する化学放射線療法
17	10月 2日	整形外科	こぶ(軟部腫瘍)の診断
18	10月 9日	緩和ケアチーム	失語と認知機能低下のある脳腫瘍患者と高齢の妻のためチーム医療を実践した1例
19	10月16日	呼吸器内科	非小細胞肺癌脳転移症例における予後因子の検討と看護のポイント
20	10月30日	歯科WG	ビスフォスフォネート関連顎骨病変～予防と対策～
21	11月 6日	がん化学療法科	原発不明癌の臨床
22	11月13日	皮膚科	手術適応でない原発性、転移性皮膚癌の治療
23	11月20日	泌尿器科	去勢抵抗性前立腺癌
24	11月27日	消化器外科	がん患者のストーマケアのポイントと実際
25	12月 4日	腫瘍外科	食道がん治療におけるエビデンス～JCOG臨床試験から～
26	12月11日	放射線診断科	原発性肝細胞癌診療におけるガドキセト酸ナトリウム造影MRIの役割
27	12月18日	産科婦人科	婦人科がんにおける分子標的治療薬の使用経験(再発卵巣がんに対するペバスマブ(アバスタチン)投与症例の治療と看護)
28	12月25日	小児科	化学療法中に患者・家族ができる支持療法
29	1月 8日	耳鼻咽喉科	上顎歯肉に発生した紡錘細胞癌の一例
30	1月15日	消化器内科	進行肝細胞癌に対するソラフェニブ治療と肝動注化学療法
31	1月22日	血液内科	がん薬物療法実施時における感染症の診断と治療
32	1月29日	乳腺外科	整容性を重視した乳癌手術～内視鏡手術を中心に～
33	2月 5日	総合診療科	がん患者のサルコペニア、悪液質予防に重要な栄養療法
34	2月12日	腫瘍外科	肺癌術後合併症～心合併症の臨床試験を交えて～
35	2月19日	緩和ケアチーム	広島県の緩和ケアをとりまく最近の話題について
36	3月 5日	呼吸器内科	当科におけるアルブミン結合バクリタキセル(nab-PTX)の使用経験
37	3月19日	放射線治療科	子宮頸癌腔内照射における鎮静について

藤井節郎記念医科学センターと 徳島Tissue Array 研究会

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
胸部・内分泌・腫瘍外科学 教授 丹黒 章



多くの遺産を遺して第1期がんプロが終了し、新たに中国・四国地方の10大学大学院と37のがん診療連携拠点病院からなる「中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム」が再スタートしてはや2年が経過しました。今回はがんプロの活動として徳島大学で産声を上げたある研究会について紹介します。

平成23年2月徳島大学では徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス(HBS)研究部の医科学・口腔科学・薬科学・保健科学・栄養科学の各教育部に、疾患ゲノム研究センター・疾患酵素学研究センターを包括した蔵本地区の総力を結集して、がんの病因解明、診断、治療法の開発のための研究推進を目的とした徳島Tissue Array 研究会を発足しました。本会の目的は(1)患者さんへ十分説明して承諾を得たのちに徳島大学病院での診療により採取された組織、血液を徳島大学組織バンクのマイナス80度の液体窒素タンクに適正に保存し、将来のTissue Arrayの確立、(2)がんに関する研究の推進、(3)遺伝子研究、創薬に関わる研究発表会、学術講演会等の開催(※表1)と(4)その他、本会の発展のために必要な事業となっています。

本年、蔵本キャンパス内に藤井節郎記念医科学センターが開所いたしました。藤井節郎先生は徳島大学酵素生理学部門教授で、後には大阪大学に移られました。脂質研究の第一人者であり、藤井研には全国から多くの研究者が集まり、その研究からタンパク分解阻害物質ノイエル、フサン、FOY、フォイバン、高脂血症治療薬プラバスタチン、経口抗がん剤UFTなど今まで日常診療に使われていた多くの薬が開発されました。藤井先生の口癖は「十倍」で、一流になりたければ人の十倍実験し、結果を十倍厳しく吟味するという「十倍の哲学」だったそうです。

われわれも藤井先生に倣って切磋琢磨してTissue Array 研究会から新たながん発生のメカニズム解明、創薬を実現したいと頑張っています。

徳島Tissue Array研究会 開催実績

表1

回	開催日	講師・ご所属	セミナータイトル/講演会タイトル
1	平成24年 1月31日	坂元亨宇先生 慶應義塾大学 医学研究科病理系専攻病理学 教授	Tissue Array とオーダーメイド治療
2	平成24年 6月11日	中川英刀先生 独立行政法人理化学研究所 ゲノム医科学研究センター バイオマーカー探索・開発チーム チームリーダー	次世代シーケンサーの原理とその解析/ 次世代シーケンサーによる癌の全ゲノムシーケンズ解析
3	平成24年 12月18日	油谷浩幸先生 東京大学先端科学技術研究センター ゲノムサイエンス分野 教授	がんゲノム・エピゲノム解析の実際/ がんゲノム解析:パーソナルオンコロジーの実践に向けて
4	平成25年 2月20日	平尾 敦先生 金沢大学がん進展制御研究所 がん幹細胞研究プログラム 遺伝子・染色体構築研究分野 教授	がん幹細胞/ 幹細胞制御機構の解明とがん治療への応用
5	平成25年 7月10日	夏目 徹先生 独立行政法人産業技術総合研究所 (AIST) 創薬分子プロファイリング研究センター(molprof) 研究センター長	ヒト型汎用ロボットによるライフサイエンス革命/ 定量プロテオミクスの最前線
6	平成26年 2月12日	高橋 隆先生 名古屋大学大学院医学系研究科 附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター 腫瘍病態統御部門・分子腫瘍学分野 教授	マイクロRNA発現プロファイルからみた肺癌の多様性 (Lung adenocarcinoma diversity definable by lung development-related miRNA expression profiles)/ TTF-1/NKX2-1:肺癌の発生・進展における諸刃の剣

研修報告

Moffitt Cancer Center

研修期間:2014年2月17日~21日

研修先:米国フロリダ州タンパ

2月17日(月)

9:00-10:30 オリエンテーション

コーディネーターのMs.Joy Vongsyprasomから研修開始にあたっての注意事項について説明を受けた後必要書類に署名した。その後施設内の外来診療棟と研究施設内をひと通り案内頂いた。

10:30-17:00 手術見学

その後、手術部に移動し、終日手術を見学した。1例目はDr.Jack Pierre Fontaineによるロボット支援胸腔鏡下左肺上葉切除術、2例目はDr.Eric Tolozaによるロボット支援左上大区域切除、3例目は特発性食道破裂に対する胸部食道全摘・胃管再建術(Dr.Fontaine)、4例目はロボット支援左S6区域切除(Dr.Toloza)であった。

2月18日(火)

手術見学およびミニレクチャー

食道がんに対するロボット支援胸部食道全摘・胃管再建術(Dr.Fontaine)を見学した後、肺・食道手術に於けるアプローチ方法(ポート位置、患者体位の取り方等)について詳細な解説を受けた。



手術において併用したナビゲーション気管支鏡システム



Moffitt Clinic Surgery Reception center. 2階が手術部

2月19日(水)

AM:講義

PM :Lunch meeting

Cancer Board参加

手術見学

Moffitt cancer centerでのロボット支援胸部外科手術の導入とこれまでの施行実績について説明を受けた(Dr.Toloza)。

お昼はLunch meetingとしてDr.Toloza, Dr.Fontaine, 内科Dr.Nishihori, 同時期に研修に参加された松原先生と情報交換する機会をいただいた。午後は胸部悪性疾患に対するCancer boardに出席した。Dr.Tolozaと臨床研究テーマについてdiscussionを行った後、手術見学に移動し、胸腔カテーテルキット植え込み術(Dr.Toloza)を見学した。



Lunch meetingにて Dr.Toloza(左), Dr.Fontaine(右)と



隣接する研究施設 Vincent A. Stabile research Building. 研究費の獲得状況について3年毎の見直しがあり、応分の研究スペースが与えられるなど、競争が激しいとのこと

2月20日(木)

AM/PM 手術見学

ロボット支援胸部食道全摘・胃管再建術(Dr.Fontaine)を見学した。

2月21日(金)

AM: 手術見学

PM: Discussion

ロボット支援左肺上葉切除術(Dr.Fontaine)を見学した。午後は私から、肺がん根治術、特に完全胸腔鏡下肺がん根治術のアプローチ方法や手技上の工夫について提示させていただいた上で手術術式についてdiscussionを行った。

1. 研修先において学んだこと

1-1 Moffitt cancer center 胸部外科におけるロボット支援胸部外科手術のチームとしての取り組みについて

Intuitive社のDavinci Si HDを用いたロボット支援胸部外科手術は術式上、応用可能な症例においてはほぼ全例に活用されていた。日本においてロボット支援胸部外科手術は未だ保険診療としては認められておらず、同技術の臨床応用を準備中である筆者には羨ましい環境であった。ロボット支援手術は日米を問わず、Nurseやsurgical assistantを含む多職種チームで構成されチームで研修して導入することが求められているが、累計500例以上の症例経験のある本施設では、準備から手術開始まで各スタッフの役割分担が明確で無駄がなく、午前・午後に縦2例で予定されているロボット支援手術を時間的余裕を持って進行していた。ロボット支援手術に限らず、特に



Dr.Tolozaによるロボット支援肺葉切除術教育されたsurgical assistantが助手として血管のstaplingまで行う

専門性の高い手術部においてはメディカルスタッフに高い専門性を身につけてもらうことが、チーム医療全体の質を高める上で鍵となることを実感した。また、本研修の主目的は個人の知識の習得ではないものの、結果として熟達したロボット支援胸部外科手術の手技を見学する機会に恵まれ、筆者としては個人的にも幸いであった。

1-2 キャンサーボードのあり方について

筆者の勤務する高知大学医学部附属病院におけるがんボードは、治療終了後の症例について内科・外科・放射線科・病理が発表しあうReviewの形式で開催されるに留まるが、本施設では、毎週、各科の新患者全員について、診断と治療方針を検討していた。胸部外科医もボード終了後にがんボードでの決定事項を患者に電話し治療方針を伝えるなど、がんボードが診療科の枠を超えて治療方針最終決定の場として機能しており、医局講座に縛られない合理的なシステムとして見習う面が大きいと感じた。



他の北米のORと同様、Moffitt cancer centerのORも十分に広くback tableに広げる手術器具の数量は日本のそれよりも多い

2. 学んだことを実行するための方策

がんボードのあり方は見習う面が多い。組織体系の異なる大学病院において、すぐに同じスタイルを構築することは難しいが、少しずつ初診症例を取り上げるなどの試みを始め各専門科の理解を得ながら数年をかけてがんボードを治療方針決定の中心に位置づける様に努力したい。

文責：高知大学 講師 穴山貴嗣

活動報告

岡山 第12回 岡山大学医学物理士インテンシブコースがん放射線科学セミナー

日 時:平成26年1月7日(火) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院入院棟 11Fカンファレンスルーム(11G)
参加者:12名

座長 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇
「看護職の専門教育と専門資格制度について現状と課題」
岡山大学大学院保健学研究科 教授 秋元 典子 先生

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、がん看護に関する専門教育や専門資格制度の現状と課題について、岡山大学大学院保健学研究科の秋元典子先生に講演して頂きました。看護専門教育の必要性は、近年ますます臨床においても問われており、放射線治療の分野においても、がん専門看護師のサブスペシャリティとして重要となりつつあります。本セミナーでは、秋元先生の専門分野であるがん専門看護に関する現状や放射線治療との関わり、専門資格制度についてわかりやすく解説をして頂き、放射線分野での今後の課題とともに議論されました。ディスカッションでは、実際に臨床に従事している参加者から質問や意見を交えて大変活発な議論と意見交換が交わされ、盛況に終わりました。

参加者の声

がん看護を中心に看護職の専門教育と専門資格制度について基盤となる教育システムの内容から臨床での活用事例に至るまで幅広く講義をして頂きました。また、放射線治療でのがん看護の重要性についても解説して頂き、岡山県内ではまだまだ人材育成が十分ではないとのことでした。今後、更に多くのがん専門看護師を輩出し、県内外に広く専門看護師が中心となって、看護師の教育水準を高めるべきとのことであり、がんプロ人材育成の面では放射線分野と共通する課題であることがわかりました。セミナーでは、さらに専門資格制度がどうあるべきか、どのように教育システムを構築すべきかなどの議論がなされ、自分たちの将来像について考えるきっかけとなりました。

高知 第4回 がんプロ国際セミナー

テーマ:地域医療について

日 時:平成26年1月21日(火) 18:00~
場 所:高知大学医学部 低侵襲手術教育・トレーニングセンター(レジデントハウス1F)
参加者:31名

内容:台湾大学学生とがんプロ学生および高知大学看護学科学学生によるディスカッション。
台湾と高知の地域医療・在宅医療について英語でディスカッションします。

終了報告

台湾大学の看護学科学科と本学の看護学科学科がお互いの大学や地域医療について英語でプレゼンテーションをした後、質疑応答により意見交換を行った。最初は遠慮がちだった質問も、次第に手が上がり、活発な意見交換ができた。参加者からは「台湾のターミナル期の医療の現状がよく理解できた」「台湾でも緩和ケアを専門にする看護があると知り驚いた」「質疑応答によって交流が深まったと思う」などの意見があり、好評であった。

徳島 市民公開講座

テーマ『がんを知りがんを克服するーがんの危険因子と予防ー』

日 時:平成26年1月13日(月・祝) 13:30~16:05
場 所:徳島グランヴィリオホテル(徳島市万代町3-5-1)
参加者:258名



- I 部 危険因子:生活習慣と感染症
島田 光生氏 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス(HBS)研究部
消化器・移植外科学分野 教授
西岡 安彦氏 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス(HBS)研究部
呼吸器・膠原病内科学分野 教授
- 講演1「生活習慣とがん〜タバコとがん/喫煙の有害性と禁煙の方法〜」
埴淵 昌毅氏 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス(HBS)研究部
呼吸器・膠原病内科学分野 准教授
- 講演2「感染症とがん〜子宮頸がんの予防〜」
吉田 加奈子氏 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス(HBS)研究部
産科婦人科学分野 助教
- II 部 がんと遺伝
高山 哲治氏 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス(HBS)研究部
消化器内科学分野 教授
丹黒 章氏 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス(HBS)研究部
胸部・内分泌・腫瘍外科学分野 教授
- 講演1「遺伝するがん〜正しく知ってしっかり対応〜」
井本 逸勢氏 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス(HBS)研究部
人類遺伝学分野 教授
- 講演2「がんに関わる未知の遺伝子を探す」
片桐 豊雅氏 徳島大学疾患プロテオゲノム研究センター ゲノム制御分野 教授

終了報告

今回の市民公開講座は「がんを知りがんを克服するーがんの危険因子と予防ー」というテーマで、徳島グランヴィリオホテルで講演を行った。258名の市民の参加があり、『生活習慣とがん〜タバコとがん/喫煙の有害性と禁煙の方法〜』、『感染症とがん〜子宮頸がんの予防〜』、『遺伝するがん〜正しく知ってしっかり対応〜』、『がんに関わる未知の遺伝子を探す』というテーマで4つの講演を行った。参加者は熱心に聴講され、がん予防に対する知識を深めていただけたと思う。徳島県内90%の購読率を誇る徳島新聞紙上で、当日の講演内容を特集記事として掲載し、当日出席できなかった市民にも周知を行った。

- 参加者評価(アンケートより一部抜粋)
- がんの治療中で常に不安の為、知識を広め安心して生活できる一助になった。
 - 詳しい資料を持ち帰りたい。また開催してほしい。
 - 前半2つの講演はよく分かり良かったが、後半の遺伝子についての講演は少し難しかった。
 - がんになる理屈がわかった。岡連長さんから体を動かす大切さを感じられた。
 - がんへの遺伝の影響が意外と少ない事に認識を新たにした。

徳島

臨床腫瘍地域医療学コース(インテンシブ)第5回地域医療セミナー

テーマ:徳島県東部地域とのがん診療連携
～患者さんの安心のために～

日時:平成26年1月23日(木) 19:00～
場所:阿波観光ホテル 5階
参加者:63名



【総合司会】徳島大学病院 がん診療連携センター
がん診療連携・相談副部門長 埴淵 昌毅 先生

- 1) 「徳島大学病院がん診療連携センターの紹介」がん診療連携センター長 福森 知治 先生
- 2) 「肺がん薬物療法の進歩と個別化医療」徳島大学病院 呼吸器・膠原病内科 講師 柿内 聡司 先生
- 3) 「大腸癌の診断と治療 -最新の知見-」消化器内科 講師 宮本 弘志 先生
- 4) 「胃癌に対する最新の低侵襲外科治療」消化器・移植外科 大学院助教 吉川 幸造 先生
- 5) 「大腸癌に対する最新の低侵襲外科治療」消化器・移植外科 特任助教 東島 潤 先生
- 6) 「肺癌手術の最近の話題」呼吸器外科 講師 滝沢 宏光 先生
- 7) 「乳がんと食道がんの県下統一パス『患者手帳』について」食道・乳腺甲状腺外科 教授 丹黒 章 先生
- 8) 「子宮癌の治療と地域連携」産科婦人科 講師 西村 正人 先生
- 9) 「泌尿器科における最新手術～ロボット支援前立腺摘除術・腎部分切除術～」泌尿器科 教授 金山 博臣 先生
- 10) 「地域連携クリティカルパスを使った連携の現状と相談支援について」がん診療連携センター 福田 直也 MSW
- 11) 「徳島市医師会 在宅医療ネットワークにおけるがん患者の受け入れ状況について」徳島市医師会 在宅医療連携委員長 豊田 健二 先生

終了報告

今回のセミナーは、徳島大学病院、徳島市医師会、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムの共催のもと、徳島大学病院と徳島東部地域のがん診療連携をさらに発展させるために開催された。今回は、「肺がん薬物療法の進歩と個別化医療」、「大腸癌の診断と治療 -最新の知見-」、「胃癌に対する最新の低侵襲外科治療」、「大腸癌に対する最新の低侵襲外科治療」、「肺癌手術の最近の話題」、「乳がんと食道がんの県下統一パス『患者手帳』について」、「子宮癌の治療と地域連携」、「泌尿器科における最新手術～ロボット支援前立腺摘除術・腎部分切除術～」、「地域連携クリティカルパスを使った連携の現状と相談支援について」、「徳島市医師会 在宅医療ネットワークにおけるがん患者の受け入れ状況について」の講演があり、各種がんの診療連携が深められた。

川崎

第2回 FDWG

日時:平成26年1月28日(火) 18:00～
場所:岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
管理棟8階 第11カンファレンスルーム

議題

1. 海外FD研修の実施方法・今後の方針について
2. FD活動のアウトリーチについて
3. その他



徳島

臨床腫瘍学・臨床腫瘍緩和医療学インテンシブコース講演会

日時:平成26年1月25日(土) 13:00～17:00
場所:徳島大学病院 日亜メディカルホール
参加者:37名



<第一部> ～がん薬物療法の進歩～

開会の辞 西岡 安彦 先生 徳島大学大学院HBS研究部
呼吸器・膠原病内科学 教授
司会 高山 哲治 先生 徳島大学大学院HBS研究部
消化器内科学 教授

西岡 安彦 先生 徳島大学大学院HBS研究部 呼吸器・膠原病内科学 教授

1. 消化器がん薬物療法の進歩 土井 俊彦 先生
国立がん研究センター東病院 早期・探索臨床研究センター 先端医療科長 消化管内科長
2. 肺がんの薬物療法の進歩と今後の展望 軒原 浩 先生
国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科 外来医長

<第二部> ～緩和ケア・在宅・チーム医療～

司会 寺嶋 吉保 先生 徳島県立中央病院 臨床腫瘍科 部長
伊賀 淳一 先生 徳島大学大学院HBS研究部 精神医学分野 講師

3. がん医療における精神心理的ケア 小川 朝生 先生
国立がん研究センター東病院 臨床開発センター 精神腫瘍学開発分野長
4. 徳島県のホスピス緩和ケアの現状 荒瀬 友子 先生
医療法人若葉会近藤内科病院 緩和ケア科
5. 在宅医療について 上原 康三 先生
あすなる診療所 院長
6. 在宅緩和ケア～訪問看護師の立場から～ 吉野 牧子 先生
あおぞら内科訪問看護ステーション 看護師

閉会の辞 高山 哲治 先生 徳島大学大学院HBS研究部 消化器内科学 教授

終了報告

<第一部>では、臨床腫瘍学インテンシブコースとして2名の講師の先生を招いてがん薬物療法の進歩に関する講演会を開催した。

国立がん研究センター東病院 消化管内科長の土井俊彦先生から、「消化器がん薬物療法の進歩」について、国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科医長の軒原浩先生から「肺がんの薬物療法の進歩と今後の展望」について講演いただいた。

いずれの講演もがん薬物療法の現状について、臨床試験における最新の開発状況を含んだわかりやすい講演で、専門外の先生を含めて活発な討論がなされた。学内での開催であったことから若手医師の参加も多く、がん薬物療法専門医を目指す医師によっても大変有意義な内容であった。

<第二部>では、がん患者の精神心理的ケアを専門とする 国立がん研究センター東病院精神腫瘍学開発分野長 小川朝生先生、ホスピス緩和ケア・在宅ケアなどのチーム医療を専門とする 近藤内科病院 荒瀬友子先生、あすなる診療所 上原康三先生、あおぞら内科訪問看護ステーション 吉野牧子先生に講演をして頂いた。

講演内容に対して活発に総合討論や質疑応答などが行われ、各施設のチーム医療と、職種を越えたがん緩和医療の活性化を推進できた講演会であった。

岡山 第13回 岡山大学医学物理士インテンシブコースがん放射線科学セミナー

日 時:平成26年1月28日(火) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院入院棟 11Fカンファレンスルーム(11H)
参加者:14名

座長 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇
「系統的な品質管理を実施するための取組みと多くの問題点」
岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹
フリーディスカッション



終了報告

本セミナーでは、放射線治療における系統的な品質管理を実施するための取組みと課題について、岡山大学病院医療技術部放射線部門の青山英樹先生に講演して頂きました。
放射線治療は近年高度化が進む一方で、多くの医療事故が発生し、現在、医療安全と管理体制が問われています。放射線治療に従事するスタッフにとって、サブスペシャリティとして放射線治療における品質管理の重要性を認識していますが、未だに職場内での理解や組織体制が不十分な施設が多く、院内での認識に対する温度差が課題となっています。
これまでの放射線治療部門の背景事情や現場体制のありかた、専門職を目指していく上で必要なことについてわかりやすく講義して頂きました。

徳島 International Symposium on Oncology Nutrition in Tokushima

日 時:平成26年1月29日(水) 14:00~17:00
場 所:藤井節郎記念医科学センター (1階多目的ホール)
参加者:100名

program
Opening remarks: Akira Tangoku, Professor, University of Tokushima
Lecture 1: Esophageal Cancer: Surgical Treatment and Nutritional Care
Akira Tangoku, Professor, University of Tokushima
Moderator: Eiji Takeda, Professor, University of Tokushima
Lecture 2: Nutritional Treatment in Oncology Patients
Margaret Allman-Farinelli, Associate Professor, University of Sydney
Moderator: Yutaka Nakaya, Professor Emeritus, University of Tokushima
Lecture 3: Cancer Cachexia
Yutaka Nakaya, Professor Emeritus, University of Tokushima
Moderator: Hiroshi Sakaue, Associate Professor, University of Tokushima
Closing remarks: Yutaka Nakaya, Professor Emeritus, University of Tokushima



終了報告

今回のInternational Symposiumでは、3名の講師の先生のご講演をいただいた。
まず、最初に徳島大学・胸部・内分泌・腫瘍外科学教授の丹黒章先生より食道がん治療における栄養管理の重要性について、また食道がん術後の食欲不振の問題や抗がん剤治療時の嘔吐・嘔気に対する栄養管理についてもご講演いただいた。
次に、オーストラリア・シドニー大学准教授のMargaret Allman-Farinelli先生よりがん患者における栄養管理について、がん患者の栄養疫学、栄養アセスメント、実際の栄養管理法、さらにはがん予防のための栄養管理まで、最新のエビデンスやガイドラインを基にご講演いただいた。
最後に、徳島大学名誉教授の中屋豊先生よりがん患者におけるcachexiaの病態ならびに診断や栄養管理法について、最近の先生の研究成果も交えてご講演いただいた。国際シンポジウムと言うことで、全ての講演・質疑応答は英語で行われた。

香川 第6回 都道府県がん診療連携拠点病院研修セミナー在宅緩和ケアに関する研修会

日 時:平成26年2月3日(月) 17:30~
場 所:香川大学医学部附属病院 地下カンファレンスルーム
参加者:134名

総司会 腫瘍センター長 合田 文則

事例検討
座長 リハビリテーション部 板東 正記
困難事例への緩和ケア
(1)呼吸困難のある患者への関わり
緩和ケア認定看護師 今出 政代
(2)がん治療中の患者への関わり
緩和ケア認定看護師 谷本 美和



講演
座長 麻酔・ペインクリニック科講師 中條 浩介
緩和ケア領域における がん性腹水への対応 — KM-CARTについて —
高知医療センター 緩和ケア内科長 原 一平 先生

岡山 第14回 岡山大学医学物理士インテンシブコースがん放射線科学セミナー

日 時:平成26年2月4日(火) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 管理棟6F 第7カンファレンスルーム
参加者:11名

座長 岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「Khan's Lectures(Chapter 5)」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Khan's Lectures)を取り入れた内容を企画しました。講義ではChapter5を中心に、光子の相互作用、減弱、電子の相互作用、中性子の相互作用などについて解説がなされました。
大学院相当の内容にもかかわらず、社会人の参加者も含めて熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。



高知 第3回ロボット手術セミナー

日 時:平成26年2月5日(水) 18:00～
場 所:高知大学医学部 低侵襲手術教育・トレーニングセンター(レジデントハウス1F)
参加者:22名

司会 小林 道也先生 高知大学医学部附属病院がん治療センター 部長

『内視鏡下手術支援ロボットダヴィンチのイロハ』
講師 井上 啓史先生 高知大学医学部 泌尿器科学 准教授

終了報告

本学医学部泌尿器科学 准教授 井上啓史先生による『内視鏡下手術支援ロボットダヴィンチのイロハ』についての講演を行った。参加者からは「いつか一度はダヴィンチを用いて手術してみたい」「まずトレーニングから始めたい」「大変分かりやすく勉強になった」などの意見があった。

徳島 徳島大学気管支鏡セミナー

日 時:平成26年2月6日(木)
場 所:第一部・第二部の場所が違います。
参加者:25名

第一部 気管支鏡ハンズオンセミナー「EBUS」
場所 徳島大学医学部スキルスラボ2
インストラクター:
岡山赤十字病院呼吸器内科 佐久川 亮 先生
徳島大学胸部内分泌腫瘍外科 助教 鳥羽 博明 先生
徳島大学卒後臨床研究センター 助教 梶浦 耕一郎 先生

第二部 講演会
場所 徳島大学医学部第3、4会議室
司会 徳島大学病院呼吸器外科長 先山 正二 先生
「EWSを用いた気管支充填術の実際 -適応・手技・問題点-」
岡山赤十字病院呼吸器内科 佐久川 亮 先生

終了報告

第一部では、今日その有用性と必要性が高まっているEBUS-TBNAとEWSによる気管支鏡充填の手技の修得を目的としたハンズオンセミナーを開催しました。参加者が多く、当該手技への関心の高さが伺えました。
第二部では、EWS生みの親である渡辺洋一先生のお弟子さんの1人である佐久川先生にご講演いただきました。豊富な臨床経験に基づいたEWSに関する実践的な講演は大変有益でした。EWSの開発秘話も印象に残りました。また質疑応答も活発に行われ有意義な会となりました。



愛媛 第6回 愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会

日 時:平成26年2月6日(木) 17:30～19:30
場 所:愛媛大学医学部附属病院 臨床第2講義室
参加者:71名

教育講演
座長 愛媛大学医学部附属病院 1号館9階病棟 看護師長 三好 祐子
演題「抗がん剤に伴う皮膚障害とそのマネージメント、抗EGFR抗体、EGFR-TKIを中心に」
愛媛大学大学院医学系研究科 皮膚科学教室 講師 藤山 幹子

特別講演
座長 愛媛大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 鶴久森 徹
演題「頭頸部がんの化学療法 抗EGFR抗体薬を中心に」
東京慈恵医科大学 耳鼻咽喉科 助教 岡野 晋

閉会の辞 愛媛大学大学院医学系研究科 臨床腫瘍学 教授 薬師神 芳洋

終了報告

本インテンシブコースの教育講演では講師の藤山幹子先生が、「抗がん剤に伴う皮膚障害とそのマネージメント、抗EGFR抗体、EGFR-TKIを中心に」と題して、実際の皮膚所見の症例を提示しながら、抗がん剤における皮膚障害の種類とそのメカニズム、具体的な予防法(保湿剤使用、日常生活の注意点)から増悪時の治療法までに関して、幅広くかつ分かりやすく解説した。
さらにInfusion reactionと呼ばれる抗体製剤投与後のアナフィラキシー反応に関しても、文献的考察と当院で進行中の臨床研究とを紹介した。

特別講演では、頭頸部外科医の岡野晋先生より、「頭頸部がんの化学療法 抗EGFR抗体薬を中心に」と題して、頭頸部がんにおける標準的治療をガイドラインに基づき紹介し、自験例を交えながら抗EGFR抗体使用のポイントについて解説した。さらに現在進行中の臨床試験から頭頸部がんにおける抗がん剤治療開発の方向性についても紹介した。

本講演会には医師のみならず多数のメディカルスタッフ:看護師・薬剤師からの参加もあり、講演後に行われた質疑応答では活発な意見交換ができた。

主催者より

本セミナーは、前半は有害事象対策としての教育講演、後半はより専門的な講演内容で企画することで患者ケア/教育を担う看護師、薬剤師から、専門として診療にあたる頭頸部外科医、歯科口腔外科医、腫瘍内科医まで多職種が一同介して、頭頸部がん診療について学べる機会となりました。
チーム医療として患者、家族によりよい医療を提供できるよう更なる関係者間の連携が強まることを期待しています。
今後もさまざまながん腫に対して、現場のニーズに基づき情報を提供できる場となるような講演会・セミナーを企画したいと考えています。



徳島

大学院臨床腫瘍学教育課程 第6回 Tissue Arrayセミナー

日時:平成26年2月12日(水) 18:30~20:00
場所:徳島大学医学部 第1会議室
参加者:40名

開会挨拶 徳島Tissue Array研究会代表 丹黒 章

司会 徳島大学疾患プロテオゲノム研究センター ゲノム制御分野
片桐 豊雅 教授

演題「TTF-1/NKX2-1:肺腺癌の発生・進展における諸刃の剣」
TTF-1/NKX2-1: an enigmatic double-edged sword in
the pathogenesis of lung adenocarcinoma

講師 高橋 隆 先生 名古屋大学大学院医学系研究科附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター
腫瘍病態統御部門・分子腫瘍学分野・教授



終了報告

ゲノム解析の第一人者に、肺腺がんのゲノム解析によるプロファイリングによるサブタイプ分類を行うことができ、遺伝子の役割解明のための実験手法を含め解説いただいた。新薬開発にも繋がる研究に参加者は熱心に聴講し、質疑応答も活発に行われた。

岡山

第15回 岡山大学医学物理士インテンシブコース地域連携セミナー

日時:平成26年2月12日(水) 19:00~20:30
場所:岡山大学病院 管理棟6F 第7カンファレンスルーム
参加者:9名

座長 岡山大学病院医療技術部放射線部門 大野 誠一郎

「フィリップスMRIの最新情報」
株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン
ヘルスケア事業部 廣保 雅文

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象にMRIの最新情報についてフィリップスエレクトロニクスジャパンの廣保雅文氏に講演して頂きました。

3T MRIの技術革新に伴い、SNRの改善や新たな画像検査の臨床応用が進んでいることが知られています。また画像の高分解能化だけでなく、検査時間の短縮、スルーット向上に対する臨床ニーズは高まっています。本セミナーでは撮像プロトコルの最適化や技術的・臨床的課題について事例紹介とともに、その有用性についてわかりやすく説明して頂きました。

ディスカッションでは、実際に臨床に従事している参加者から質問や意見を交えて活発な議論が交わされました。



愛媛

第7回 愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会

日時:平成26年2月19日(水) 17:45~19:00
場所:愛媛大学医学部 40周年記念講堂
参加者:53名

総合司会 愛媛大学附属病院腫瘍センター長 薬師神 芳洋
開会の挨拶 愛媛大学大学院医学系研究科長 安川 正貴

特別講演「がん哲学外来～医師の2つの使命～」

演者 順天堂大学医学部病理・腫瘍学 教授 樋野 興夫

終了報告

当日は医学部創立40周年記念講堂において、順天堂大学医学部 病理・腫瘍学 教授 樋野興夫氏を講師に迎え、第7回愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会を開催致しました。

樋野興夫先生は、愛媛大学医学部の一期生として当学をご卒業後、基礎病理研究の分野で活躍された後、順天堂大学医学部附属病院で、「がん哲学外来」を現在展開されています。

「がん哲学外来」とは、ご自身の知識と経験を基に、がん患者やその家族の悩みや不安に寄り添いながら、精神的な解決策を模索するというものです。樋野先生はこの活動を全国展開しながら、医療者と患者・家族の間にある溝を埋める事が、がん診療では最も重要であると述べられています。「治す」と言う事に加え「癒す」と言う行為こそが医師の2つ目の使命である、と講演で力説されました。当日は、多くの医療者が樋野先生の講演に聴き入り、今後の医療を考える良い機会となりました。



愛媛

第1回 市民公開講座

日時:平成26年2月21日(金) 17:30~18:30
場所:愛媛大学医学部 40周年記念講堂
参加者:56名

特別講演

座長 愛媛大学医学部附属病院 緩和ケアセンター センター長 長槽 巧

緩和ケアセンター主催市民公開講座

「こころ?」の時代 ～東日本大震災後のスピリチュアル・ペイン～
演者 爽秋会岡部病院(在宅医療)医師・東北大学名誉教授 山室 誠

終了報告

医学部創立40周年記念講堂において、爽秋会岡部病院(在宅医療)医師・東北大学名誉教授 山室誠氏を講師に迎え、市民公開講座を開催致しました。

山室先生は、東北大学医学部に緩和ケアを立ち上げる際にご尽力なされた先生です。先生は、東北大学を退官後、再度実地臨床の場に立ち戻られ、東北地方で被災されたがん患者さんの、在宅でのケアに携わっていらっしゃいます。

講演会当日は、「「こころ?」の時代」～東日本大震災後のスピリチュアル・ペイン～と題してご講演くださいました。先生は、日本語で「靈魂」と解釈されているこの「スピリチュアル」が、病気を持つ人々にとって何なのか、ご自身が経験された緩和医療や東日本大震災をとおして解説され、この「スピリチュアル」こそが、生きる源であると述べられました。

また、「スピリチュアル」や「靈魂」が、社会で語られる機会が少なくなっていることが、希薄な社会になっている理由の一つであるとも述べられました。今回の講演会は、市民公開講座の形を取り、医療従事者だけでなく多くの一般の方からの参加もあり、がん患者さんの精神的なケアを考える意味で貴重な講演会となりました。



高知県立

がん看護インテンシブコース I

～質の高いがん看護実践を創造していく在宅がん看護師の養成～

日 時:平成25年11月4日(月・祝)～平成26年2月22日(土)の間のうち15日間

場 所:高知県立大学ほか

参加者:8名

研修の目的

在宅移行支援の必要ながん患者や、在宅看取りを希望する家族に対する看護ケアの充実のため、がん患者の入院早期から退院後の生活を見通してケアを提供し、在宅療養の可能性と選択を広げることのできる看護職およびチーム医療を基盤とする在宅がん医療をコーディネートしていくことのできる専門的知識と技術を有する看護師の養成を図ることを目的に、15日間のプログラムで実施した。本研修では、がん看護コアカリキュラムのエンド・オブライフ・ケアや在宅療養支援を基盤に、研修終了後、実践現場ですぐに活用できるように演習を中心としてプログラムを構成した。

終了報告

在宅移行支援の必要ながん患者や、在宅看取りを希望する家族に対する看護ケアの充実のため、がん患者の入院早期から退院後の生活を見通してケアを提供し、在宅療養の可能性と選択を広げることのできる看護職およびチーム医療を基盤とする在宅がん医療をコーディネートしていくことのできる専門的知識と技術を有する看護師の養成を図ることを目的に、15日間のプログラムで実施した。本研修では、がん看護コアカリキュラムのエンド・オブライフ・ケアや在宅療養支援を基盤に、研修終了後、実践現場ですぐに活用できるように演習を中心としてプログラムを構成した。

参加者からは、「8名という人数で連帯感をもって学習することができました」「実際の訪問看護の実践に役立った」「新たな気づき、発見が多く、とても刺激された」「在宅緩和医療についての知識と技術を深めることができた」などの意見を得た。

川崎

インテンシブ生涯教育コース

川崎医科大学附属病院がんセンター 第14回 Cancer Seminar合同講演会

テーマ:病理、画像および腫瘍マーカーで分かること分からないこと

日 時:平成26年2月8日(土) 13:30～16:00

場 所:川崎医科大学 校舎棟 7階 M-702教室

参加者:44名

司会:平塚 純一 先生(川崎医科大学放射線医学(治療) 教授)

■講演1「日常臨床における腫瘍マーカー(CEA, CA19-9)」松本 英男 先生(川崎医科大学消化器外科学 准教授)

■講演2「前立腺がんにおけるPSAの役割」常 義政 先生(川崎医科大学泌尿器科学 講師)

■講演3「病理-免疫染色の診断有用性と限界」鹿股 直樹 先生(川崎医科大学病理学2 准教授)

■講演4「PET,CT,MRI」玉田 勉 先生(川崎医科大学放射線医学(画像診断1) 准教授)

■講演5「超音波検査を上手に活用するコツ」今村 祐志 先生(川崎医科大学検査診断学(内視鏡・超音波) 講師)

終了報告

がん医療関係者の生涯教育を目的として開催された。今回は、テーマを「病理、画像および腫瘍マーカーで分かること分からないこと」とし、「日常臨床における腫瘍マーカー(CEA, CA19-9)」前立腺がんにおけるPSAの役割」「病理-免疫染色の診断有用性と限界」「PET,CT,MRI」「超音波検査を上手に活用するコツ」として、腫瘍マーカーを利用したがん治療法の利点や問題点、効率のよい検査方法、免疫染色の有用性と限界など、事例を紹介しながら、最新のがん治療について、講演が行われた。

岡山

第1回 岡山大学医学物理士インテンシブコース がん放射線科学セミナー

日 時:平成26年4月8日(火) 19:00～20:30

場 所:岡山大学病院入院棟 11Fカンファレンスルーム(11D)

参加者:20名

座長 岡山大学病院医療技術部 青山 英樹

「包括的第三者評価への研究協力と当院における
品質管理状況の改善に向けた取り組み」
岡山中央病院 放射線がん治療センター 中山 真一

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、放射線治療の包括的第三者評価への研究協力と品質管理状況の改善に向けた取り組みについて岡山中央病院放射線がん治療センター中山真一氏より講義を行って頂きました。

セミナーでは第三者評価の概要説明から、自施設における放射線治療の品質管理改善活動について文献等を交えて解説がなされました。ディスカッションでは、大学院生や若手技師と中堅、ベテラン技師とともに活発な議論と意見交換が交わされ、盛況に終わりました。

参加者の声

放射線治療の品質管理における第三者評価の意義と実践について講義して頂きました。放射線治療の高度化とともに、品質管理の重要性が叫ばれていますが、セミナーを通じて第三者評価の意義や役割について理解が深まりました。自施設での対応や地域活動においてどのように実践すべきかなどの議論がなされ、実務レベルでの課題を考えるきっかけとなりました。



岡山

第2回 岡山大学医学物理士インテンシブコース がん放射線科学セミナー

日 時:平成26年4月15日(火) 19:00～20:30

場 所:岡山大学病院入院棟 11Fカンファレンスルーム(11D)

参加者:10名

座長 岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「Khan's Lectures(Chapter 7)」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Khan's Lectures)を取り入れた内容を企画しました。

講義ではChapter7を中心に、電離箱の構造と特性およびX線ビーム線質のパラメータについて講義がなされました。大学院相当の内容にもかかわらず、社会人の参加者も含めて熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。



岡山 第4回 岡山大学医学物理士インテンシブコースがん放射線科学セミナー

日 時:平成26年5月13日(火) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院入院棟 11階カンファレンスルーム11H
参加者:11名

座長 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇
「放射線計測(X線)」
岡山大学病院医療技術部放射線部門 松屋 亮平

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、高エネルギーX線の放射線計測に関する内容を企画しました。セミナー講義では新しい国内線量校正プロトコル「標準計測法12」を中心に、線量校正の概念とともに従来のプロトコルとの違いについて講義がなされました。専門資格の取得に向けて大学院生、社会人らが熱心に話を聞く姿勢がなされました。

参加者の声

今回のセミナーは、社会人向けの放射線治療の実務に関する内容について講義形式によって行われました。放射線治療における線量計測は非常にシビアであり、1%レベルの内容が多く含まれ、各種補正技術や物理的な基礎理論について解説していただきました。臨床現場では、このような情報について確認する機会が少なく、このようなセミナーを通じて、情報交換ができることは有意義だと思います。ディスカッションでは、放射線治療に関連する専門資格の取得に向けた勉強と対策の話があり、とても有用であると感じました。

岡山 第1回 岡山大学医学物理士インテンシブコース地域連携セミナー(放射線診断)

日 時:平成26年6月17日(火) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 管理棟6F 第7カンファレンスルーム
参加者:13名

座長 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇
「Arterial Spin Labeling(ASL)法とその応用撮像方法」
岡山大学病院 医療技術部 放射線部門 濱口 裕行

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、Arterial Spin Labeling(ASL)法とその応用撮像方法と題し、岡山大学病院放射線部門の濱口裕行先生より講義して頂きました。セミナー講義では、ASL法の撮像原理や撮像技術などを中心に、臨床応用事例を講義して頂き、4次元解析などホットなトピックおよび将来展望についても解説がなされました。大学院相当の内容にもかかわらず、専門資格の取得に向けて大学院生、社会人らが熱心に話を聞く姿勢が見られました。

参加者の声

今回のセミナーでは、MRIの撮像技術の中でもASL法を用いた血管撮影技術に関する講義でした。講師の先生には、前施設での臨床における実践内容をわかりやすく解説して頂きました。また、最新のトピックについても解説がありました。このようなセミナーを通じて、放射線診断技術や医学物理の実践について学ぶことができることは有意義だと思います。



岡山 第1回 岡山大学医学物理士インテンシブコース地域連携セミナー(大学院公開講座)

日 時:平成26年6月21日(土) 13:00~18:20
場 所:岡山大学大学院保健学研究科 保健学科棟3F 301室
参加者:12名

司会 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇
講師 国立がん研究センター東病院臨床開発センター
粒子線医学開発部 粒子線生物学室 室長 西尾 禎治 先生

放射線計測学1
放射線計測学2
放射線治療線量計算1
質疑応答



終了報告

本セミナーは、毎年開講している大学院保健学研究科「放射線治療管理学特論」の一部を公開形式としてジョイント開催された。徳島県、広島県、など県外からの参加があったが、今年度は県内参加者が少なかった。講義では基礎から応用まで幅広く、有意義な内容であった。7月にも同様の内容が企画されているので、次回はさらに多数の参加者が集うように周知させていきたい。

参加者の評価として、このような講義をセミナー企画として開催されることに対して理解があり、満足度は非常に良好であった。講義科目の一部であるため内容は基礎的な範囲が中心であるが、実務に絡めて応用する話題も多く、有意義であったと思われる。

参加大学

Consortium Member

川崎医科大学
Kawasaki Medical School

がん専門医養成コース
●学務課教務係
TEL(086)464-1012

岡山大学
Okayama University

がん専門医養成コース・がんプロ在宅高齢者緩和コース
精神腫瘍医コース
●医学部総合研究科等学務課教務グループ大学院担当
TEL(086)235-7986

がん専門・指導薬剤師養成コース
●医学部総合研究科等学務課事務室教務学生担当
TEL(086)251-7923

高度実践看護師(がん看護)コース
がん放射線科学コース
●医学部総合研究科等学務課教務グループ保健学研究科担当
TEL(086)235-7984

広島大学
Hiroshima University

がん専門医養成コース
がん専門薬剤師養成コース
がん看護高度実践看護師養成コース
医学物理士養成コース
●医学部保健学研究科等学生支援グループがんプロ事務局
TEL(082)257-1538

香川大学
Kagawa University

腫瘍内科系専門医養成コース
緩和医療専門医養成コース
腫瘍外科系専門医養成コース
放射線治療専門医コース
●医学部総務課学務室大学院入学試験係
TEL(087)891-2074

山口大学
Yamaguchi University

腫瘍外科アドバンスコース
腫瘍内科アドバンスコース
放射線治療アドバンスコース
研修医腫瘍専門医コース
高度実践看護師(がん看護)コース
●医学部学務課大学院教務係
TEL(0836)22-2058

徳島文理大学
Tokushima Bunri University

がん専門薬剤師履修コース
●香川キャンパス庶務渉外グループ
TEL(087)894-5111

愛媛大学
Ehime University

臨床腫瘍学教育課程がん専門医養成コース
●医学部学務課大学院チーム
TEL(089)960-5868

徳島大学
Tokushima University

臨床腫瘍内科科学コース・臨床腫瘍放射線医学コース
臨床腫瘍外科科学コース・臨床腫瘍栄養学コース
●医学部事務部学務課大学院係
TEL(088)633-9649

臨床腫瘍薬剤師コース
●医学部事務部薬学部事務室学務係
TEL(088)633-7247

臨床腫瘍看護学コース・医学物理学コース
●医学部事務部学務課第二教務係
TEL(088)633-9009

高知県立大学
University of Kochi

がん高度実践看護師(APN)養成コース
●学生課大学院担当
TEL(088)847-8580

高知大学
Kochi University

臨床腫瘍内科系コース
放射線治療専門医コース
臨床腫瘍外科系コース
がん専門薬剤師養成コース
医学物理士養成コース
●医学部・病院事務部学生課大学院担当
TEL(088)880-2263

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム Vol.40

- 編集兼発行者
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局
TEL 086-235-7023 info@chushi.ganpro.jp
- 印刷所
有限会社 ファーストプラン